基調講演

須知 高匡
Zip Infrastructure 株式会社

宮城県出身。幼いころから宇宙が好きで、大学では、超小型衛星や惑星探査ローバCANSAT等の開発に関わる。
宇宙エレベータの昇降機の開発も経験するが、宇宙エレベータ実現のためには資金面と技術面の両輪を回すことが必要と気づき、Zip Infrastructure株式会社を2018年7月に起業。
昇降機開発の技術を活かした交通インフラ「自走型ロープウェイ」事業を主に行っている。

戸谷 俊介
株式会社プロドローン

電通名鉄コミュニケーションズ（DMC）で国内外のモータースポーツ関連業務に従事。
DMC東京支社長時代に名鉄グループ「ドローン事業化部会」に参加。2019年の東京モーターショーでは、モータースポーツ知見を活かし、日本初のFAI（国際航空連盟）公認DTRC2019ドローンワールドカップと、空の移動革命に向けたシンポジウムを開催。
空の可能性に魅了され、2021年に株式会社プロドローンの代表取締役社長に就任。
「目指すは空のスタンダード」を掲げる。

ディスカッション

安藤 章
株式会社 日建設計総合研究所

日建設計総合研究所 主席研究員 / 次世代モビリティデザイングループマネージャー /
博士（工学・名古屋大学）/ 技術士（建設部門 都市及び地方計画）
専門分野として、ICTを活用した交通・まちづくり戦略、都市・交通計画、政策受容性分析と合意形成手法、モビリティ・マネジメント。
都市"は人々の"幸福"のために、どこまで貢献ができるか？」をまちづくりの実務的視点から突き詰めていきたいと考えています。「幸福」追及は古より、人類の最大の課題でした。このテーマは、都市工学だけでなく、社会学や医学、情報学等の多様な領域の方々との連携が必要不可欠だと考えている。

岩本 唯史
株式会社 水辺総研

ミズベリングプロジェクトディレクター／（株）水辺総研代表取締役 ／
水辺荘共同発起人 ／ 建築設計事務所RaasDESIGN主宰
建築家。一級建築士。国交省のミズベリングプロジェクトのディレクターを務めるほか、全国の水辺の魅力を創出する活動を行い、和歌山市、墨田区、鉄道事業者の開発案件の水辺、エリアマネジメント組織などの水辺利活用のコンサルテーションなどを行う。
横浜の水辺を使いこなすための会員組織、「水辺荘」の共同設立者。
東京建築士会これからの建築士賞受賞（2017）、まちなか広場賞奨励賞（2017）、グッドデザイン賞金賞（ミズベリング、2018）

リレートーク

一般社団法人 中川運河キャナルアート

中川運河の再生のためにアートを中心としたまちづくりを13年前から沿岸倉庫群や水上で展開している。当事業では、電動キックボードを使用した沿岸での観光ルートの提案や、運河の魅力を伝える動画を制作し、インフルエンサーらとともに、SNS上で情報発信を進めている。

円頓寺商店街

名古屋で最も古い商店街の一つといわれ、今も昔懐かしい面影を残す歴史ある商店街です。昨年は商店街内でのラストワンマイル実証実験を行い。今年度は、近くを流れる堀川を活用した商店街までの水上交通の導入によるアクセス改善および商店街アーケード内における移動コンテンツの拡充を目指した社会実験を実施中。

合同会社 ありまつ中心家守会社

まちの空洞化に関する課題を遊休資源の利活用と場づくりで解決し、なりわいとにぎわいが生まれるまちづくりのお手伝いを進めている。
現在、有松地区にはシェアサイクル等のライドシステムが無い。当事業では、いかに回遊性の仕組みが作れるか等住民ワークショップを通して議論を深めている。

ささしまライブまちづくり協議会

2017年10月7日、中核施設であるグローバルゲートの開業にあわせて「まちびらき」し、2019年2月には「一般社団法人」となり更なる活動強化を図っている。特に、名古屋駅から滲みだしを獲得するために、新交通システムの可能性について見聞を広げ、リニア中央新幹線が開通する未来に向けた議論を開始した。どのようにささしまライブに人を呼び込むか、企業間連携とメンバーが知恵を出し合いアピールしていく。

木曽三川と堀川・上下流をつなぐ交流会実行委員会

名古屋市、そして堀川は永く木曽川の恵みをいただいてきました。名古屋市の人々には上流域のことをもっと知ってもらい、上流の人々には名古屋のことをもっと知ってもらう、そのような取り組みをしています。今回は、上流の皆さんが名古屋市内を巡る機会に、堀川における舟運観光の可能性を評価していただき、また、学生に船上でガイドを試みてもらい、このような枠組みが持続可能なようにするにはどうすればよいかを模索しました。

那古野下町衆

名古屋市西区の円頓寺商店街、円頓寺本町商店街、四間道界隈の若手商店主を中心に、コンサルタント、大学研究室、建築家、企業、クリエイターら、この地域を愛するさまざまなメンバーが、那古野周辺のまちづくりについて話合い活動しています。現在、活動エリアである歴史的町並みで、商店街（那古野）から各拠点への移動手段別による所要時間等を調査し、最適な行動計画を提案するマップを制作中。

水辺とまちの入口ＡＣＴ株式会社

SUPでの水上散歩や、堀川を知れば名古屋が分かるディープな水辺ガイドなど、ナゴヤの水辺に人がいる風景の創出を進めています。当事業ではSUPが移動の手段として機能していくための調査をイベントを通して実施しています。
近い将来SUPが水辺の交通手段として市民の身近なものとなりますように。

福田 篤史

名古屋市住宅都市局都市計画部交通事業推進室長
平成15年に名古屋市入庁。名古屋都市センター研究主査、住宅都市局交通企画課係長、同局都心まちづくり課係長、国土交通省国土政策局企画専門官（出向）などの後、2022年4月より現職。
都心部のまちづくりと連携した新たな路面公共交通システム（SRT）の導入や、ガイドウェイバス次期システム（自動運転バス化）の検討を担当し、名古屋市が目指す「最先端モビリティ都市」の実現に向けて奮闘中。

田口 大輔

neuet株式会社 名古屋オフィス事業開発担当
岐阜県出身。ITの営業、システム・Webの制作進行、貿易、インバウンドなど、主にスタートアップで多種多様なジャンルに携わってきた。
キャリアの半分の時期で、名古屋とアジアを橋渡しする仕事に関わる中で、名古屋の街の移動の課題を解決すると、もっと新しい価値を生み出すことができると考え、シェアリングのモビリティサービスに取り組んでいる。

全体コーディネート

井澤 知旦

名古屋学院大学名誉教授 ／名古屋工業大学客員教授 / 博士（工学）/ 技術士（建設部門）/ 一級建築士 / 目下、福祉系、環境系、農業系、文化系、観光系のNPOで活動。
1952年大阪生まれ。1978年名古屋工業大学大学院工学研究科修士課程を修了後、民間シンクタンクへ就職、1990年に自ら都市計画系コンサルタントを設立し、代表取締役に就任。2012年～2023年名古屋学院大学教授、公共政策としての公共空間の管理・運営、地域経営としてのエリアマネジメント、地域福祉とまちづくりなどに取り組み、最近では「ストックシェアリング」をテーマに活動。著書に「名古屋都市・空間論－消毒された都市から物語りが生まれる都市へ－」（単著）、「よみがえるダウンタウン」（共訳）など多数。

司会/進行

佐野 瑛厘

小学校から高校卒業までをアメリカ・ロサンゼルスで過ごす。帰国後は南山短期大学を卒業後、航空会社にて勤務。1993 年春ラジオ DJ に転身。地元・名古屋と関西圏をベースにキャリアを重ねる。2005 年には、日本国際博覧会「愛・地球博」公式 FM 局のメイン DJ、期間中の国連デーや万博最終日のグランドフィナーレのバイリンガル司会等も務める。抜群の語学力と音楽への興味と知識、好奇心などを生かして、ラジオの DJ にとどまらず、海外から訪れる有名ミュージシャン、俳優、映画監督などの通訳、さらに日米ネイティヴ・ナレーター、司会者としても活躍。

交通アクセス

名古屋駅から

名古屋臨海高速鉄道あおなみ線
▶ささしまライブ駅下車 徒歩1分

徒歩
▶広小路口から約10分
▶名鉄中央改札口より15分

ささしまウェルカムバス
▶ミッドランドスクエア前乗車・グローバルゲート前/ささしまライブ/下車 徒歩すぐ